

巻頭言

Jネット会長

太田四郎 (本町五丁目出身)

今年の夏は大変な暑さが続きましたが、皆様におかれましては、ご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、この頃は暗い話の多いなか、このたびの物理・化学二分野でのノーベル賞受賞は科学技術面での自信のもてる明るいおめでたいことでした。

一方、最近の日本は、北朝鮮との国交や経済再生など緊急の問題山積ですが、さらに長期的な視点で我が国を眺めると、これまた大変な問題をかかえていることに気がつきませぬ。

ある雑誌の記事によれば、二十一世紀末には日本の人口が約半分になるそうです。そうすると単純に考えれば、多くの施設や物をはじめすべてが半分不要になることになりませぬ。

また、収入の方は、二十世紀には所得倍増で昭和二十五年(一九五〇年)に五千五百円だった大卒初任給が平成十二年(二〇〇〇年)には約二十

万円と半世紀で三十六倍になりましたが、この倍率でいけば、二十一世紀末には初任給が二千五百万円を超えることになりませぬ。しかし、到底そんなことは期待できないでしょう。

今の低成長の実態から推して、せいぜい一パーセントの成長と考えれば、五十五万円位が妥当なところでしょうか。そうすると、人口半減によって収入も大幅に減ることになり、今日私達が享受している豊かな生活の基盤である多くのインフラが維持できなくなるのは自明の理です。

ですから私達には、子孫が豊かな生活を送ることができるよう、将来を見越して色々な施策を考え、実現する責任があることになりませぬ。

最も簡単な方法は出生率を高くすることですが、西洋文明化された日本では非現実的な空論といわざるを得ませぬ。

そこで、今こそ改めてJネットの存在理由を

考えていただきたいと思うのです。

Jネットは、ふるさと上越を核にしたふるさと上越を愛する全国各地の人々の集まりです。このJネットのような組織こそがふるさとへの街づくりやこれからの上越の進むべき方向性に対し、大いに役に立つ時期が来るのではないのでしょうか。Jネットは発足してようやく六年目になります。当分は、会員の親睦を通じて会の組織を確かなものにしていくことが大切ですが、今後はより積極的に、ふるさと上越の豊かな将来の街づくりに資する提言を続けて行くこともJネットの使命であろうと思います。そのためにはまず、会の組織をさらに確かなものにするのが先決で、それには一人でも多くの仲間を会員にすることだと思えます。それにより、次のステップへと飛躍することができ、Jネットが一層有意義で楽しい集まりになると考えるからです。

これまでも会員の皆様には色々お願いをしてまいりましたが、これからも会の運営に倍旧のご理解とご尽力をたまわりますようお願いしませぬ。



総会での会長